

第2回豊明市総合計画審議会議事録

2024年7月31日（水）

午前10時00分～午前11時30分

豊明市役所新館4階 第1委員会室

1. あいさつ

○新沼会長あいさつ

大変な猛暑の中、お集まりいただきありがとうございます。また、事務局の皆様、大変多くの資料を御用意いただきまして、本当にお疲れ様でございます。

災害級の暑さと言われており、全国各地において暑さ対策というのが行政の大きな課題になるだろうと感じております。従来、このような暑さ対策を日本の行政で考えるということはあまりなかったかと思いますが、気候変動ということで、時代の変化に応じた政策を打っていかなくてはなりません。

また、円安・物価高ということで、生活に対して不安を抱えている方も多くいらっしゃるかと思います。さらには、学校関係者の方や子どもたちと関わっている方がいらっしゃると思いますが、少子化の進行は予想をはるかに超え、現行計画の推計値を下回る出生数になっているかと思っております。

課題は多くありますが、今回たくさんのニーズ調査等々していただきました。それらを基に、より良い計画を策定していけるよう、委員各位の活発な発言を期待したいと思っております。

また、本日後半に意見交換会がございます。長時間になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○小浮市長あいさつ

先ほど新沼先生からもありましたが、皆様暑い中、またお忙しい中、こうしてお集まりいただきましてありがとうございます。

この総合計画は、豊明市の最上位計画でございます。基本的にはこの総合計画に沿って市政を運営させていただくため、市民の皆様の生活に密着した、非常に重要な計画となっております。御協力をお願いします。

また、後半の意見交換会に向けて、赤と青のカード（赤が「もう少し頑張りましょう」、青が「よく頑張りました」）を書くように指示がございましたが、「もう少し頑張りましょう」しかないという方は、赤いカードをたくさん書いていただいても結構です。

委員の皆様、それぞれの職業の分野に沿っていただく必要もないので、まちはこうあるべきだ

という視点から、豊明市の足りないところ、少し頑張っているところ、そういったところを皆様の視点で評価いただけると幸いです。

また、本当に環境の変化が激しく、熱中症対策について方針を急転換し、小中学校の体育館に冷房を入れることにしました。さらには、少子化対策について、順次強化している状態であり、子育て支援施設としてカラットを主に活用させていただいていますが、新しい拠点をさらに南側につくる、あるいは、新沼先生が教授としてお勤めされている桜花学園さんと話し合いを進めている状況でもあります。子育て支援については、十分ということはないので、色々な形で施策を充実させないといけないと思っています。そういった我々の考えで足りない部分をご指摘いただいて、この総合計画が充実したものになりますように、お願いしたいと思います。本日も御協力ください。よろしくお願いいたします。

2. 審議会の公開について

(新沼会長)

本日の審議会傍聴者が1名お越しです。本日の審議会について公開することとし、傍聴人に入場いただきますが、よろしいでしょうか。

(一同) 異議なし。

傍聴人入場

3. 議題

(1) 第5次総合計画の総括評価について

事務局（企画政策課長）より参考資料、資料1-1に基づき説明

事務局（行政経営部長）より資料1-2 めざすまちの姿26、27に基づき説明

事務局（市民生活部長）より資料1-2 めざすまちの姿17、18、19に基づき説明

事務局（健康福祉部長）より資料1-2 めざすまちの姿15、16、33に基づき説明

事務局（経済建設部長）より資料1-2 めざすまちの姿7、10に基づき説明

事務局（教育部長）より資料1-2 めざすまちの姿13、38に基づき説明

小浮市長から資料1-2 めざすまちの姿40について補足

(小浮市長)

めざすまちの姿40に「失敗を恐れず」とあるが、市長という立場で失敗は絶対に許されない。

果敢にチャレンジはしていると思う。本日、藤田医科大学の石原先生にお越しいただいている

が、藤田医科大学と 2015 年に始めた地域包括ケアシステムは、医師だけでなく多職種で連携し、一体となって高齢者のフレイルを予防し、要介護状態を深刻化しないようにするシステムであり、これは豊明モデルとして全国に普及している。

また、それに伴って進めている市民同士の生活支え合いのシステム、お互いさまセンターちゃっとや、豊明市の公共交通機関である名鉄電車と名鉄バスを補完する形でチョイソコシステムを（株）アイシンと協力しながらやっている。

これらも全国にどんどん普及しているが、こういったことを踏まえて 2019 年から豊明市の視察件数は全国で断トツ1位である。

これは職員がチャレンジした結果で、失敗は絶対に許されない状態でチャレンジをさせている。私もその決断をしていて、独断で進めた事業もある。失敗を恐れずということではあるが、失敗は絶対に許されない。税金で我々は運営している状態で、我々が失敗をすると市民のいくらかの割合に必ず悪影響を及ぼしてしまうのである。

だからこそ、多くの情報を得て、色々な機関や他の自治体、そしてここにいらっしゃる各団体の皆様と色々な形で話し合いを進めて、色々な協力をいただきながら、何とか課題を乗り越えていこうとしている状態である。

第6次総合計画にあたって、我々はチャレンジしていく必要はあるが、失敗は許されないという認識でいる。若者はどんどん失敗してチャレンジすべきだと思う。失敗を繰り返すことで、新しい経験値が生まれて、大きな成功につながっていくと思う。しかし我々の失敗は許されない。そういった認識であることだけ御理解いただくと幸いである。

●質疑

（石原委員）

一点目。めざすまちの姿 19 について、重層的支援制度のアウトリーチの結果として発災や火災件数のアプローチに努めるということだが、具体的にどのようなアウトリーチをしているのか。

二点目。めざすまちの姿 26 について、市民にとって必要な情報を分かりやすく適切なタイミングで提供していくためには、自治体DXの推進がこれまで以上に重要になってくるため、マイナポータルを活用するという総括があったが、具体的にはどのようなことか。

三点目。めざすまちの姿 7 について、道路環境が良く、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができると思うが、我々の大学の学生の違法駐車対策のため、市に協力をいただきコーンを立てた件が、違法駐車も含めて道路の通りにくさに関係しているのではないか。個人的に豊明市の道路は運転しやすくありがたく思っているが、これに関して総括や意見があれば参考のため教えてほしい。

(市民生活部長)

一点目について。まず、重層的支援について簡潔に説明する。重層的支援とは、国が提唱している取組で、地域や家族の役割が逡減し孤立化が進行する中で、福祉の面で、現状の領域別でのセーフティネットでは支援しきれない人達をキャッチするための制度である。たとえば 8050 問題のように、一家庭内に複数の領域の困難がある場合、それぞれの窓口ではなく、地域包括支援センターなどが一括で支援を行うということである。3年前に立ち上げ、訪問や伴走支援など、より濃密なアウトリーチをしてくために、今年の4月に実働部隊を共生社会課に設置した。具体的には、地域資源につなげたり、カラットに連れて行ったりと、個別の対応や支援、領域へのつなぎ合わせを行っている。その中で、災害時に危険のある家庭、火災が起きやすいような暮らしがりの家庭など、リスクが高い状況が多く見られる。そういったリスクの回避を意識し、活動を行っている。

(石原委員)

色々な部局が市役所内に留まらず現場に出て活動しているということが、重層的支援のアウトリーチであることが理解できた。

(行政経営部長)

二点目について。第6次総合計画では、たくさんの情報があふれかえる中、民間のターゲット広告のような、各個人にとって必要な情報のみを届ける仕組みが必要となると想定している。今、国が各個人に情報を届けるサービスとしてマイナポータルを用意している。当初は、情報取得は個人の責任だと言われていたが、これからは我々の責任で必要な情報を確実に届ける必要があると考えている。役所の手続きは申請主義が多く、たとえば減免措置など、申請時に減免対象なのか情報を知っていたかどうかの有無で公平とは言えない場合もある。そういったこともふまえ、マイナンバーカードの普及率の向上も含めて、マイナポータルを中心に情報発信について考えていく必要がある。

(石原委員)

今、我々もデジタル庁と厚労省と協力し、医療情報を全国普及するためのモデル事業を始めようとしている。ぜひ、情報交換をして進めていきたい。

(経済建設部長)

三点目について。豊明団地の違法駐車、放置車両が多い。URや警察と協力して処理しており、今後の対策を検討中である。また、猛暑、ゲリラ豪雨の影響で雑草が伸びていて自転車や歩行者に支障をきたしている。そのため、市の道路管理者として、草刈り回数を増やすことで対応している。

(石原委員)

よく理解できた。

(佐藤委員)

一点目。めざすまちの姿 32 について、工業団地の整備の進捗、どれくらいの進出があるかなどの状況を教えてほしい。

二点目。めざすまちの姿 28 について、まちづくり指標で0歳～14歳までの子どもの数が減少傾向と書かれているが、資料1-1の5歳階級別人口増減は推移がほとんどないように見えるが、違いは何か。

(経済建設部長)

一点目について。工業団地として、柿ノ木地区で工業団地の造成を愛知県の企業庁の実施で行っている。こちらについては、来年の2025年度から造成工事が始まるということで、6区画ほどの予定をしている。

(小浮市長)

補足をすると、来年度から事業者が土地を引き渡された状態で工場の造成が始まる状態である。早いところだと、再来年度には工場が建ち従業員を受け入れて運営が始まるというペースで進んでいる。

(行政経営部長)

二点目について。めざすまちの姿 28 の人口数は単純な集計であるが、資料1-1の数値は5歳刻みのコーホート分析であり、グループごとの変化の動向を見ているため、違いが生じている。

(松本委員)

総括評価書に平成令和の表記があるが、この下に西暦を入れてほしい。その方がわかりやすい。

(行政経営部長)

西暦表記で統一する。

(2) 第6次総合計画の策定経過報告について

事務局(企画政策課長)より資料2-1に基づき説明

事務局(地域問題研究所 河北)より資料2-2～2-6に基づき説明

(新沼会長)

色々な観点から、市民に質問等したわけだが、例えば転出理由に関して、通勤の利便性の面で、テレワークがこれだけ浸透していることは豊明市にとっては追い風になるのではないかという感

想を持った。これについてはよろしいか。

●質疑

特になし

(3) 今後のスケジュールについて

事務局（企画政策課長）より資料3に基づき説明

4. その他

次回審議会は12月6日（金曜日）午前中を予定。

出席委員 長山加代子、近藤明、服部力、松本昇、新沼英明、石原慎、石田泰城、佐藤浩一、尾崎芳美、近藤俊秀、加藤誠、安藤直樹、佐藤元紀、岡裕香、中野憲一、古川幸子

欠席委員 丹羽秀行、山田善彦

市職員 市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、健康福祉部長、経済建設部長、議会事務局長、教育部長、東部知多衛生組合事務局長、尾三消防組合事務局長

事務局 企画政策課長、企画政策課長補佐、企画政策課職員2名、
（一社）地域問題研究所3名